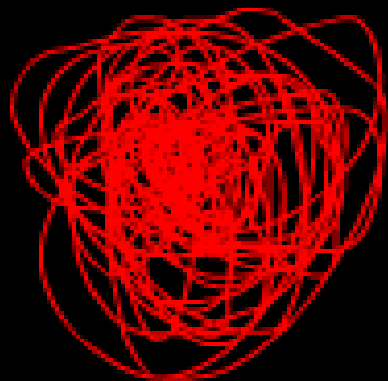


6人の料理人

と

隻眼の少女



ジャンル：謎解きホラーアドベンチャー（2D）
対応ハード：パソコンを想定
プレイ人数：一人
プレイ時間：約4時間
制作費用：0円

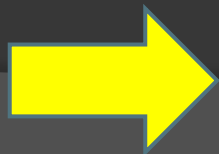
企画書



～コンセプト、このゲームを思いついたプロセス～

◎コアなゲームファンも、そうでないユーザーも プレイしやすいフリーゲームの王道のホラーゲーム

- 色々な人にプレイしてもらいたいからフリー,フリーゲームといえばホラー
 - 自分が作ったゲームをとにかく多くの人にプレイしてもらいたいから
 - フリーゲーム実況動画等でも数が多いジャンルの「**ホラーゲーム**」
 - 料理人である主人公が食べられてしまうという世界観設定でホラーを演出。
 - プレイヤーを食物連鎖の中に放り込むことで、恐怖感や緊張感を表現。
- 個人的に、個性的なキャラクターがたくさん出てくるゲームが好きだった。
 - 好きなキャラクターがいると感情移入しやすくなる。
 - また、キャラクターが印象に残ることでゲーム自体もプレイヤーの記憶に残る
 - SNS等で拡散されたり、キャラのグッズ化など知ってもらう機会が広がる可能性も...
- よく見るフリーホラーゲームは、主人公以外にゲームに深く関わってくるキャラクターが少なく、物足りなさを感じていた。
 - 「料理人」という形でキャラの印象を付けやすくし、
 - すぐにキャラを殺さず、十分焦点を当ててから死なせる。



ホラー×キャラクターノベル

～ゲームシステム～

基本的に、探索→謎解き→探索... の繰り返し

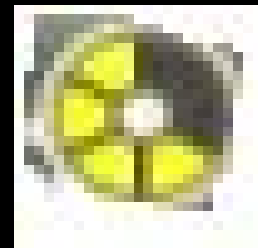
- マップ内のトラップを躲したり、謎解きをしながらダンジョンを進んでいく
(謎解きは、マップ内にあるヒントを探して正解のコマンドを入力することによりクリアできる。
テーブルマナーの順番や、マップ内に隠されたレシピ通りに食材を使う等の、
なるべく料理に関係する謎解き。
クリアすると新しいエリアに進むことができる鍵などが手に入る)
- ゲームオーバー条件：
踏んだだけでゲームオーバーになる座標が存在。
追いかけてくる敵やトラップに触れる。
謎解きで間違えたコマンドを入力してしまう。
- ゲームクリア条件：
全てのエリアを探索し、
ダンジョンの最深エリアにたどり着く事が出来ればゲームクリア。

～ゲーム性（このゲームの面白さ）～



其の一：急に現れて追いかけてくる敵

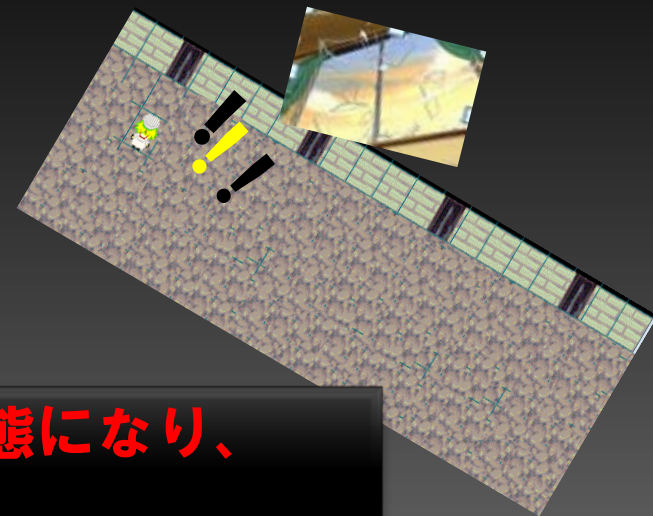
敵は障害物などを上手く避けることが出来ない。
主人公キャラにスタミナゲージを設け、
一定時間以上連続で走れないようにする。



いかにスタミナを節約しながら敵を障害物にハメて
逃げ切るか、というゲーム性が生まれる

其の二：急に窓が割れたり叫び声が聞こえたりする
王道のびっくりギミック

マップ内には、歩くだけで
窓が割れる音が鳴ったりする座標を用意



プレイヤーはいつ驚かされるかわからない状態になり、
主人公同様の緊張感を味わえる

～ゲームの売り(一般的なホラーと異なる機能)～

ホラーでありながら、
キャラクター一人に焦点を当てるのが
このゲーム最大の売り

①キャラに応じた特定のアイテムを見つけて
キャラクターのところに持っていくと

イノシシの肉を 手に入れた。
イノシシの肉を手に入れた

③スタミナを気にせず
走れるようになるなど、
キャラに応じて
ゲームを有利に進めることが
できるシステムが追加される

キャラと仲良くなると...

②キャラクターの好感度が上がり、
キャラ毎のストーリーが見られたい
キャラにちなんだミニゲームができる

(落ちてくる食材に触れてキャッチし、
スコアを出すゲームなど...)

～補足～

キャラとストーリーのイメージ

★メインキャラクター

◎ 6人の料理人

得意料理と特技

- | | |
|-------------|--------------------------------|
| ● カレー (男) | (プレイヤーキャラクター) |
| ● ジュース (女) | (ミキサーを使える) |
| ● 鍋料理 (男) | (火を使えるようになる (物を燃やして障害物を排除できる)) |
| ● ジビエ料理 (男) | (スタミナを消費せず走れるようになる) |
| ● 鉄板料理 (男) | (鉄板を使えるようになる (壁を作れる)) |
| ● 和食 (女) | (お婆ちゃんのマメ知識的な知識が豊富 (謎解きのヒントに)) |

◎ 主催者側
設定

- | | |
|-------------|---------------|
| ● マダム (女) | (主催者) |
| ● 片目の少女 (女) | (主催者の娘) |
| ● 執事 (男) | (会の進行や説明役の執事) |



★簡単なあらすじ

（ゲームの世界観の参考程度に）

（主人公目線）

6人の天才料理人が、料理人の登竜門とも呼ばれる会に招待された。

当日、会場に6人の料理人が揃い料理を作り始めたが、突然会場に悲鳴が響き渡る。

料理人たちは料理を中断し悲鳴の正体を突き止めるために会場内の探索を始めるが、会場から出られなくなっていることに気づく。

主人公たちは悲鳴の正体を突き止めるため、また会場内に漂う不穏な空気を払拭するために会場の探索を進めていく。

その中で、人間の死体が保管されている倉庫を見つけ、主催者の娘が「人間の肉を好んで食べる」ことが分かり、自分たちが「食材」として呼ばれたことに気がつく。

料理人たちは会場から逃げようと会場の地下にまで探索の足を伸ばしていくが、会場には自分たちを殺す仕掛けがたくさんあり、他の料理人たちも生き残るために必死になっていく。...

（敵目線）

娘が謎の病気にかかってしまって、全くご飯を食べてくれなくなってしまった。

医者連れて行っても原因が全くわからないらしい。

どんどん痩せ細っていく娘の身を案じていたある日、夜中に物音で目が覚めた。

物音のする方へ近寄って見てみると娘が何か、かじっている。

娘にも食べられるものが見つかったのだと思いよく見てみると、娘がかじっていたのは自分の目玉だった。

娘は人間の肉しか食べられなくなってしまったらしい。

娘のために屋敷を改造して沢山の人間を捕まえて娘に与えてきた。

それでも、どうにかして娘にも食べられる食べ物を見つけるため、才能ある料理人を自分の屋敷に招いて様々な料理を作らせてきた。

しかし、今回の料理人たちはこの屋敷の秘密を知ってしまった。今までのことが公になったら娘が生きていくことはできない。なんとしてもあの料理人たちを生かして返すわけにはいかない。

主催者は、屋敷の様々な仕掛けを使って料理人たちを捕まえようとする。...